米下院議員ウツドラ

支借 か 共和 ワー 回日 強 財 カ フー の 日 強 関

東に反對し、左の如く語つに外ならないからだ、こに外ならないからだ、こに外ならながに對する職債職國たる支那に對する職債でありた。ここの場合支援の共興した對支タレデットは明かに中立法違反を

務長官の言明は米國民の智 は如何なる外國の紛争にも は如何なる外國の紛争にも は如何なる外國の紛争にも は如何なる外國の紛争にも

性を侮辱するものだ、クレーサットを附興すると言つても結局これを負擔するのはこの見地からかいる借款はこの見地からかいる借款はこの見地からかいる借款は

春れてゆく忙しい足どりの 中にも、時局の色調は見逃せ

陳公博等重要人物も加はる

に學生引渡方を

闌貢の援蔣

1下壁より置養にした支那銀 はイラワディ河航電社の貨物 はイラワディ河航電社の支店がある、又武器買入れの必要上 ある、又武器買入れの必要上 ある、又武器買入れの必要上

武器輸送

愈よ露骨化

関係 一一 では、これを押收し同寄宿舎 た、事件の意外に大なるを知 表情 一一 では、これを押收し同寄宿舎 た、事件の意外に大なるを知 まけを知った教育廳より李司 民運會の青年抗職工作奮勇騒 から超大文等六名の學生を訓 作等十三名の首謀者を引致し 牧 間した結果、この陰謀の参加 た、この事件により十一日夜 陳 1 であることが判明し が開かれ協議の結果四人の代 2 であることが判明し 1 である。 1 であることが判明し 2 であることが判明し 2 であることが判明し 2 であることが判明し 2 であることが判明し 2 であることが明かれている。 2 であることが明かれている。 2 であることが表現である。 2 である。 2 であることが表現である。 2 である。 3 である。 4 である。 3 である。 4 である。

大原 したが容れられぬ 大原 したが容れられぬ 数策を講じつゝある、なほ押 牧文書中には四川軍黨部委員 陰謀には相當重要人物が加は ので成都に歸還し

ーンからの確實なる情報によ

蔣、輸出不振に

苦慮

和を圖る

日六十二月二十

今京 吉川商會 板材 **秋甲板**

十三次國務院河談は廿六日午十三次國務院河談は廿六日午後二時より國務院河談は廿六日午 健せられた龍事項を可決せり一、文官令施行の際、現に雇員たりし者にして委任官に任用せらる者の定員に闘する件

電二九一三百

治産局の改組、指紋管理局所 治産局の改組、指紋管理局所

御親臨の下

開院式擧行さる 畏くも御異例の勅語を賜ふ

には畏くも時局に 御出門、百武侍從長御陪乘 御先着の各皇族殿下に御對 正十一時玉座に着御、近衛院された、この日 にて午前十時四十分宮城を 御先導にて一旦便殿に入御 等に拜謁仰付けられた後、時貴族院において を引されて略式自動車鹵簿 堂清御、松平貴族院議長の 佐々木、金光南院正副議長院式は畏くも天皇 装を御取止め第二公式鹵簿 長以下供奉申上げて兩院議 平沼、原掘府正副議長以下院式は畏くも天皇 装を御取止め第二公式鹵簿 長以下供奉申上げて兩院議 平沼、原掘府正副議長以下院式は畏くも天皇 装を御取止め第二公式鹵簿 長以下供奉申上げて兩院議 平沼、原掘府正副議長以下院式は畏くも天皇 装を御取止め第二公式鹵簿

語を賜った、ついで松平議 長御前に進み謹んで勅語書 長御前に進み謹んで勅語書 長御前に進み謹んで勅語書 長御前に進み謹んで勅語書 を拜受して退下し、效に意 を選を選御、天機體はしく 中五分諸負最敬機の狸に離 ひ事變長期職下に處し國民 二十六日の開院式に當り左 二十六日の開院式に當り左 三十六日の開院式に當り左

交際ハ益々選厚ヲ加フ朕深 ニ告ク帝國ト締盟各國トノ に貴族院及衆觀院ノ各員 院立ニ帝國議會開院ノズヲ

告を掲げて華僑開始し支那新聞 反省の色を見せ に對しビルマ官 に對しビルマ官 に対しビルマ官 さくらフォルム さくら印画紙

れば、英國の援票排票となったラングーンに於ては聚にスケラングーンに於ては聚にスケラングーンに於ては聚にスケラングを対して以来武器輸送を

ラングーン市の東郊スーダンード強より陸揚げした武器を一下強より陸揚げした武器を一下強より陸揚げした武器を一つが強より陸揚げした武器を一つが強いがあるが、一方ビルマ政艦はそ

加へて

ヲ建設シテ東亜永遠ノ 民精神ノ島揚ト関家郷 と精神ノ島揚ト関家郷 と野期ノ目的ヲ達成セ シ所期ノ目的ヲ達成セ

候補者決定 建識委員長 感罰委員長 次第委員長

七十三通常議會の閉院式に、東唐第七十二屆時議會、第七十二屆時議會、第一七十三屆時議會、第一十二屆時議會、第一十二日時職會、第一十二日十二日十二日十二日十二日十二日十二日十二日十二日十二日十二日日十二日

テ己ニ支那ノ要城コルショトラ

重太を愈々痛感するととも し貴衆兩院議員一同時局の し貴衆兩院議員一同時局の し貴衆兩院議員一同時局の

政治そのものには新画目があらねばならぬ 遠藤海軍少將 遠藤海軍少將 で左の如く愛表された 海軍少精 遠藤 落一 補ドイツ在動帝國大使館附 大末 H 五 ग र 日一十 てま

陳公博

も同

到着か

▲須田貞夫氏へ 都ホテル 都ホテル を三浦四郎氏へ

本行田一清氏 大八木富平氏 承徳 その日 イ

二十五日哈市

戦時下の議會ひらぐ。われ

(編機社員)同

关 飾 答 用 用 額

ムバル

眞 寫

誠實な意思よくそこに代表さ銃後國民大衆の眞剱な際、

て、東亜協同體の守りに備満洲國では國防建設を強化

內

店

行

六二〇五•〇九三二3 話電

銘

崩 艛 造

締切ますから至急御下命下さい

いませんが一萬二千本に達しましたら 本月に限り御一人様の数の制限は御座

給 配 大 經 Ħ 話② 銀座新道角

一七〇七番

一升一圓十錢瓶別

酒

銘

り限本千二萬 四 間日

年末最後の特別奉

仕

職電報規則

大王家鳥燈臺

少の傾向であったが、去る夏頃から訴訟沙汰は次第に 在の司法省調査に

明春期

等に廣光な改正を加へ一月一 制定すると共に日滿電報規則を 報、日華無線電報の兩規則を

報として國内制度を骨子とす 変方面との電報は今後日華電 関電報として取扱つて來た中

わが對外通信に一エポッ

珠部隊長

軍狀奏上

と張化研新を期し併せて相互勢に鑑み國都愕界をして一段

十頭だけ捕へたのでトララを輸送中であつたが

に備へて同港出入船 大王家島に約十萬圓 大王家島に約十萬圓 大王家島に約十萬圓

共に死ぬ

愛馬進軍歌

當選

領が一般大

第五部廢止

監燈する事とな

月一日よ

しようと陸軍省馬政課では

餘名打つ 器師會

北端討匪行の聖戦に不幸傷いた皇軍白衣の舅出四十一名は二十七日午後三時十分新京縣着列車で到着、一名は二十七日午後三時十分新京縣着列車で到着、

あす傷病兵着京

へあつたが、結果同科と書格 かまないでは、 おいまない はいまれ が機運を促しつ

会別があるので、 別鮮料理初音館の入口をが

來春早々發會

滿鐵醫院、市立醫院も加入

頃既に寢てゐる富士

その二 空前二時出

綜合醫師會

たが全治約一週間の見 松君は深町陽院で手當

末松政基君運轉京タク一三三 座新道を客を乗せて進行中の

した通行人があるので

指場入りをしたが政府第五代 島通派出所員に連行されて留 のでは、 は場入りをしたが政府第五代 を付け得も暴れてゐる所を入

來る春を空し

官舍居住畜產局勤務加藤德

假名二

シターク

に轢殺さる

軍人會館の邦人書記さん

日滿連絡機

行する豫定である

富士町の小火 ニー六

自肅自戒いづく

は 一世)の馬車に乗った醉っば の馬車に乗った醉っば の馬車に乗った醉っば 後十時頃南 知らぬか低は中央通の刑事だ つと暴言を吐くので本聚に連 つて姓名を阿部幸司と名乗るのみで前後不覺になり来だに 娑婆の風

半島青年逮捕

どつておきの野菜

いふから賣出し

南満からも

再度留置場入りとなった中央通署限刑事に見付けられ

十五日午後六時五十分新京縣 無く三等車便所内に黒ビロー ドジャンバー 着用の滿人が縊 野で死體を下したが身許不明 である 列車の便所内で 滿人縊死

害輕微である。

して六時すぎ漸く鎖火したが満側店より出火、同店を全焼質の繁華街春日町五番地玉屋 挡 開近には病棟その他の大建築 物が櫛比してゐるので大騒ぎ となり必死となつて消火に努 めた結果同十一時卅分質と

ず明春早

實蜜等を 、製品は 代表者松

春藤中であるが認可と共

1 婦一名、恵者四名が居つたが一般火奮時は他出不在のため幸 砂火奮時は他出不在のため幸 しく損害約五千圓 設立を認可願 取敢へ

オ分京城帝大附屬病院結核病 者は奉天に事務所を置くれ王 る関係にある本社城大 附屬 「京城國通」金百萬圓を以てする清凉飲料 も當然實現せねば城 大 附屬 「京城國通」金百萬圓を以てする清凉飲料 も當然實現せねば城 大 附屬 「京城國通」金百萬圓を以てする清凉飲料 も當然實現せねば東から、しく損害は約十萬圓 國都市民に衛生的で安價な清 準備を整へてゐる末から、しく損害は約十萬圓 國都市民に衛生的で安價な清 取敢へず新

末からゝしく損害は約十萬圓 店街のことゝて一時は大騒ぎ であつた、原因は選火の不仕 い商

漸洲航空新京移轉準備進む 京に移轉し然る

空處を移轉

で、東京國通」
五月場所を最後に土俵生活から際退した名行 は大相撲は廿五日九段靖國神社 相撲場で行はれ約五百名の白 大相撲は廿五日九段靖國神社 が、男女の上手投、一部での一番双葉山とり交字通り大相撲とかった。 上り交字通り大相撲となった。 上り変字通り大相撲となった。 上り変字通り大相撲となった。 上り変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字通り大相撲となった。 とり変字がり、見事に極 が、男女の上手投、見事に極

又御商賣をなさる御店の歳末賣出用

義和路營業所

1 11 11

業

九〇

玉六.

興安大路營業所

2

個三

臨時燈の御申込る右同樣是非早目に

寄の電業營業所に御申込願ひます

氣器具の故障は早目にお調べの上最

度に輻輳して皆様に御迷惑を御懸け

する様な事がありますから電燈や電

寬城子營業所

六七

0

末になりますと電気の修理申込が一

日本橋通營業所

3

二二〇二 九五 三六

み年末が間近に迫りました例年蔵

電業

の御知らせ

電

業

支

店

電話。六五一一

御申込願ひます

古山大長出張
新京支社大長古山勝夫氏は二
新京支社大長古山勝夫氏は二
新京支社大長古山勝夫氏は二
が名二週間の豫定で上海、南

右綱希望の方は木

十八、九歳より廿四、五さん募集

の 島 岩 市

年齡二十九十

上追而採用考査日を通知する。最近撮影の寫眞を添へ自筆心の男子職員を募集す、希望

、希望者は來る十二

滿洲國官吏消費組合

利用者順に増加し新京營業所 間電東京大阪福岡行は三十一 制電東京大阪福岡行は三十一 制電東京大阪福岡行は三十一 である かんしい 悲鳴をあげてある

に乗り今後を期待されてゐる 百萬貫貯藏の計畫も漸次軌道 いても研究を進めつゝあり三

三笠町三ノ五 (金) 五五六四番 三笠町三ノ五

目科業營

其他材料一式 基。 豐 床 基。 豐 床

見玉疊商店

最話さ二二九〇香

第京曙町三丁目十八番地

康徳六年度の 京徳六年度の 大満洲帝國武道會では大連、 大満洲帝國武道會では大連、 大満洲帝國武道會では大連、 大満州帝國武道會では大連、 大満州帝國武道會では大連、 大満州帝國武道會では大連、

年末年始を整へ最近飛行機の新京東京間日滿連絡定期航空が行てゐるが

京協の。 東議合不能となり來征を中止 本民に於て選手中に病人が出 本民に於て選手中に病人が出 を大に於て選手中に病人が出 を大に於て選手中に病人が出 を大に於て選手中に病人が出

神鹿國都1

でなった。 でなった。 で表される

す(廿七日)

今晩主いる放送

本七・四〇議演(新京)古海忠三▲八・三〇物語、奉天)の「海正巳▲九・〇〇浪花節」

案內係急募 五時迄に本人來談乞 :日 Ξ 0

加座

代由年統

らり、ための悩みと、これをが知知るための並々ならぬ努力を物語つて除りあるものであ

しく はない、もし、かいる方 きではない、もし、かいる方 きではない、もし、かいる方 きではない、もし、かいる方

れてゐるべ

映國

畫都

界

0

(日 曜 火) 斯界制覇 名作 堂人 を目指 松竹 凝 J. 0 笠豐近高佐田衛峰野 紅葉山 豪華 5 らして銀幕に再生す 放 か 敏 核 樹 脚 子二 つたこ 絢爛篇見 人不朽の 武吉上佐三田川山分宅 審滿草 邦 3 3 子 人 信 子 松竹京都特作 千兩長脇差 市川右太右衛門 北 市川右太右衛門 清監源與尾原 水子等 宏 一套 和 景、 **太松美津枝** 夜の勞働から 第 三邻春新 週 · 春 新 一第春新 週 週 松竹キ*マ京都特作映畵 松竹キネマ特作映書 松竹キネマ京都特作映書 妻を怖が 鬼面三日月黨 日 9 大船超特作映畵 イス・ワイ・ 歌 3 後 篇 篇 夫 久松三津枝 高松錦之助 ルガ 高田、浩吉・主演 坪齋 内藤 女 優 總出演 總松 法 美達子雄 動大船 助演

いり約束を形造り、 今や置換へられた軌道 特映の數度に互る人車 職制の改革などこの問 歌制の改革などこの問 を雄辯に物語るもので を雄辯において官僚 での初期において官僚 年と

幸ひにして、一年といふ試 方の熱意と襲かた、端映、業者双 方の熱意と襲かた、端映、業者双 がかり東々を形造り、業界は いヶ約東々を形造り、業界は や電換へられた軌道の上を を離辯に物語るものであり、 を相解して官僚的色彩 を推禁された營泉方針が一轉 での初期において官僚的色彩 を推禁された營泉方針が一轉 を非難された營泉方針が一轉 を非難された営泉方針が一轉

さい、なぜならば映画大衆こと、合理化を當事者に要望し と、合理化を當事者に要望し に過ぎないがも知れないが、 特料がこんな接排に安心出来 ない人達の裁量によつて取扱 はれてゐるや5では寫眞料を がでない、延いでは之が映畵 大衆に課せられて来るのであ るから、極言すれば高い料金 を拂つて映畵を観る者が一番

時は午前三時、 编号



曲作隊樂軍軍遊馭遣派支中 阅波•富久•山德 则

ク約東ルが電話して清算を 見ることは困難である、既に いたののであり、勢ひことから生す のであり、勢ひことから生す るを繋神し取り除くべきであ なか、これが満映及び業者の なか、これが満映及び業者の なか、これが満映及び業者の なか、これが満映及び業者の な検討が加へられた。
な検討が加へられた。

然特料を附して然るべきもの な、或る配給部員が幾つかの な、或る配給部員が幾つかの に見せたところ、迂濶にも営 つたと言ふー之は單なる噂話ので上司も叱るに叱られなかたは目が高い』と煽てあげた

物數番

當局檢閱强化

で検閲當局でも時柄その内容に宮廷に闘するものが多いのに宮廷に闘するものが多いの について酸重なる検討をなす ものに對しては近く演能中止 の處置に出る模様である、現 等に區分されて居る い、許し物(勸進帳 ひ、許し物(勸進帳 が時局下、一封 ことにならうと觀られてゐるので、『封じ物』も數番出る四にまで波及するに至つたも四にまで波及するに至つたもので、『封じ物』も數番出る で、實生、金剛、 九番習ひ、重習 一百十番、そ るのである



い、皆が囃子を始めてさても 臓クン何でも知らぬことはないらしい、その中に疲れたか 同性愛の二葉さんの床へもぐ

なかつたらどうかしてゐるお てゐるのが當り前で磨つてゐ 二葉、醉つてクダ卷 的酒を ある方 ●二黒の人 口舌に 掛るべし必ず次第に増大す 取引にも爭なき様すべし

入を頼りにす

依頼心を去り

人に見せて、それから得ら利 と支持を得べきである、『日 と支持を得べきである、『日

議映配給の今後に深甚な關心 を拂ぶ所以である。

元に在り進むは凶 向ふ河岸の花を 禍は遠くにあら

・九紫の人 心の曇り取れて 愉快に物事の運び行く吉日 き込れぬ様すべし失物注意 他人の爭論に卷

神三古高 大木山田益川田 谷村本

でき日七りよ日四月一) は週二第

發縮表。. にて明込み下 小マ事務所宛 月十五八 招待券・三枚(七名) 招待祭・二枚(十名)



抽籤は雨新聞社の立合の

美鳩まり・立公見 小川操 完 淺香新八郎 高山廣子 武 艷 童 尾上榮五郎

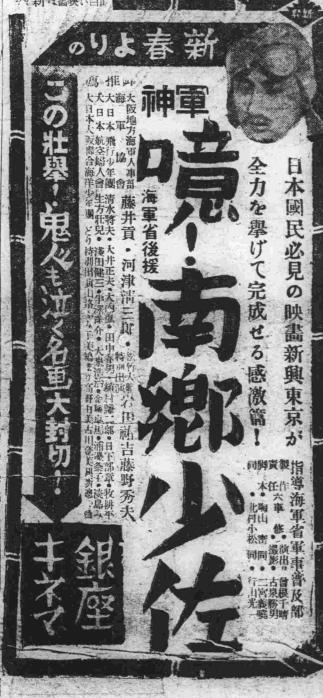
藤井 貢·河 高山廣子

一州月二十

礦事鑛調圖原號區業床查面書石紹計說調作鑑介書明量製成定

地諸願凮手續一切秘密酸守迅速正確滿州與鑛業法に基く申出の出願登錄其 諸手續交渉を代行す 與亞鑛業事務所

TAX SECTION OF THE SE 空巢狙 金物百貨店 E 西 用



来たのに驚いて 原田や、そのい 原田や、そのい

念に、悪化して

『お削念いて、柳瀬さんごこ

て、空地の方に走って行った。 というによい 「海水郎が、居漕屋の観命の

かう言って、安稼ごいふ浪かう言って、安稼ごいふ浪がまった。 山下茂兵衛は、それを受けて、立ち上つた。

こ、舟として、谷本に出て行った。

しく飲めねえ代物だから、高つてから、なってから、なってから

他の浪人者達も、

默つて、ぞ

ら、ほんさに野

仕方がなん

言つたざころで

飛まれエゼ!

つあい

たいちやア

ホーヘンベルガース

スタウフエ

、はじめて安穏に會つたのかがないではないか……』

けは討たして上げたい

柳瀬さんに、敵だ

み草紙(九)

異様な光り

なあに、

すぐ話はつけ

既つきをして、除た

先刻の浪人者

東に角、表に出 を、放った。 を、放った。

表に出て賞ひたい

なものが、身體ぜんたい

衛の態度であった。

のかまずのてだらう。 でか逃げのてだらう。

思また

かう

場に至って

(PE)

書

夜用心記

なた、山下

樣子

山下茂兵衛の

カ 1 ラチ ツー四元

三村仲

大雅·書

下

かねば、

(日 曜 火) = 七 7 H. Th E こ過ぎぬ……安福は、我々があるさいふ響ではないし、たあるさいふ響ではないし、ためるさいふ響ではないし、ための音楽の行き遠ひ 税が、突つ立つてゐるのが趣暖能を透して、往来に、 かしいーー記せば は、けるいだ 1 一一話せば、分る

者記聞新

花

美川

办

つみ・

音羽久米子。

村芙紗子

共演 春上

男· 見明凡太郎·

ひかる。

高木 田

永二。

金子

惠藏主演!!

龍澤 靜子。

歌 川 網 州 網 州

枝枝

尾上燕丈!

35錢

温温店

では、安様さいふ渡人者の、 には、安様さいふ渡人者の、 には、安様さいふ渡人者の、 で、何も知ら んであらうが…

ででである。 ででない、 がっかりするぜーー。 字之は、 数ひよく、 ばッさ 戸外に 漢び出して行った。 ででは、 数のよく、 ばッさ

十二月限 1.5gg 2.5gg 4.7gg 4.7gg

| | | | 會

會

展 大七佰二分一 宋 九一〇十八字 大七佰八分五 八七佰八分五

各地商品市况

失魔ホルダー入

四侧九十五线

音樂傑作選



商况欄語

第三輯・ゲツツイ 第二 韓・ワルツ

タンゴ

外經濟電報

一九片云分二 二〇片云分三 九片云分三

て、ビタリご正眼につけてゐ。」これに野して、茂兵衞は、 日頃の茂兵衛ごは別人の難 れはまた。 剣を取つ

・ 手を倒さるづ荒鷲の如き氣勢になりがぶつて、一撃の下に相。 なりがぶつて、一撃の下に相。 なりがぶつて、一撃の下に相。 なりがぶつて、一撃の下に相。 空地であった。 ががは

東京株式 (短期) 東京株式 (短期) 東京株式 (短期) 東京株式 (短期)

各地株式市况 二七弗 三分七二七弗 三分七 阪期米

五四三二一現 五四三二一現 三四三二一立委 月月月月月 ● 月月月月月 ● 等月月月月 展限限機級物豆限機限限限物豆豆腿限限限队 **全元至**東至東京 至三 章型

二七九 4 二四中 分分式

至至1111會 11 公共宣共主 各地

特産市况 一名為帝豆 田東高

滿

蒙

のエイウイウユデ 匠名 の輔英澤瀧ぐ衣に江の魔逢 週四第 週 五 第 鈴十五田山 郎交傳內河大 トスヤキータスルーオ外郎太彌川黒 117 るすとんさ崩を襲の年百三川 ・相震の件事器曝火 映業大の大最亦。 んじんに」の末日 槍 彦左衛 更け 生人りくつび 戰

0 超豪華番組 御 期待下でい

ライムハウスプルース

楽洋の







内案藝演の月正お

◎新春のお親みは先づ公會堂の漫才から 正月元旦 a り 五日間 (三頭形)(株) 不西漫才名匠名流大家 公

會

堂

お 十五 五圓 圓 引 受 致 詰 ま 圓

員

まで

祝町三丁目青陽ビ

一階

鍋の店

魚湯

電話③六八〇五番

露 支 關 十二月廿六日三十 係 文献資料 吉 開同 野 催時 古 巖 書 乞! 松 均 日迄 堂 展覽會 御 特 書 觀 賣 店 會

甘五日排鴨一齊に攻勢に轉じ 西部山岳地帯に堂々の軍を進 西部山岳地帯に堂々の軍を進

いては敵六十九師の土門村庫 敵を掃湯した、また北方にお 敵を掃湯した、また北方にお

る敵退路遮断作戦がもの×見 河部隊の同陣地北側を迂回す 河部隊の同陣地北側を迂回す

(日 曜 火)

朝 411 【頁二十刊夕朝紙本】

ミ議ノ陸重臣體民皇臣で帝車恭 ラ院委下審等東熱軍等ラ機駕シる院、 医議託ノ議議亜烈思感レ談製ク勅本東 及こ隆協ミ安愈勇激優會臨推語會京 衆院 物語 奉答文 『東京國通』 廿六日の衆議院本會議において可決した の勅語奉答文左の如した

印稿發行所新京永樂町四,新京永樂町四,新京永樂町四,新京永樂町四,新京永樂町四,到國五拾錢錢銀面五拾錢錢錢銀面,

找方叉四萬

分は左の如くであるが實際 **漁戦の九萬九千、** れてゐる、 軍部發表 o、この間尊き護國の鬼と化じたわが忠勇なる將士の敷は四萬七千百三十三名である。なほ主なる鹵獲品の敷は現在判明した武漢戦の十九萬五千等をはじめぶして總計實に八十二萬三千三百名に達し敵に與へた損害總計は**尠**くとも二百萬を越すもの米を發表したが、これによれば敵の遺棄死體のみで上海戰の八萬一千、南京戰の八萬三千、徐州戰の十二萬三千、北支方面辯 【東京國通】大本營 れより遙かに多数に上る筈である。 我損害の總計及び

支那事變戰果

西省境に及び安北、東北地方一時支職線は南は杭州附近より一時支職線は南は杭州附近より における西部戦線的七百九十 ・ 本中に比すれば約四倍、南支 方面は戦線四百二十五キロで ・ 職線二百三十キロの約二倍に ・ 達してゐる

占據地域は察吟爾、綏遠、

地區に

を世界大戦

に及び安北、東北地方 に及び安北、東北地方

出、さらに北方目指して猛進制十時頃売村鎮東西の線に進の大部隊を撃破しつ、同日午の大部隊を撃破しつ、同日午の大部隊を撃破しつ、同日午の大部隊を撃破しつ、同日午の大部隊を撃破しつ、同日午の大部隊を撃破した。

陸鷲も協力

戰

(臨汾廿六日發國通)山西省 南方臨汾西方の裏陵西北山岳 市方臨汾西方の裏陵西北山岳 地二日午後培裡村を中心とす サニ日午後培理村を中心とす 粉碎、大混亂に陷らしめた

行ひ完全にこれを撃

事に成功して同日午前十一時 敵は雪崩を打つて潰走、わが 取白料北側に進出した、一方 中部の哈裡村陣地攻撃のわが 来川、清水雨部除も同日正午 北の山麓地帯は完全にわが軍 北の山麓地帯は完全にわが軍

折衝を開始することとなった。 の近く關係官を現地に派遣し の近く關係官を現地に派遣し の近く関係官を現地に派遣し 6満州國の支拂超過は惹い るが、これに對し大職省當局 一のパーター制を希望してゐ 一のパーター制を希望してゐ

で、間等

當支た的したな はる結果となるので満 の一方的輸入に對して を 要存なしとしてゐるが右の 要存なしとしてゐるが右の 要者なしとしてゐるが右の 要量さへ解決される 外容易ではないかと 外容易ではないかと かなる、即ち滿淵園側 のではないかと かなる、即ち滿淵園側 のではないかと かなる。

張君勵。 共產黨 に痛寒 に有解 に上海廿六日愛國通」軍慶來 電によれば交通部長張公権の 別にして國府有力領袖として 知られる張君崎は廿五日の國 共産黨首領毛澤東に宛てた大 産

であらら、故に共産黨は 大陸軍の指揮權を即刻蔣介 石に引獲すべきである、中 関共産黨は當分の間マルク と全勢力を傾注すべきである。中 を応む教國抗戦に全勢力 蓬莱町一丁目 電話33180

語偶

第年末だけに相當度 たこれじや普通便が六 たこれじや普通便が六 を引きが、1000円間い

成に多大の損害などを進攻せり、加

百キロを翔破、その重要任務を達成したるは一に搭乘者の技倆の優秀と器材の優良とを物語與へ同五時全機無事○○基地に瞬遠せり、この間柴田機は途中から發動機不調なりしに拘らで天候を克服し敵防空火器を胃しつゝ午後二時一路重慶市の土空に達し大小無籔の爆弾を投下を確へたち中前十時半田中、服部、今川、木村、古林の各部隊長は各その先導機に搭乘、部下を體へなり以て之を覆滅するに決し十二月廿六日武漢地方折柄の天候恢復を利用し堂々数十機を連製し以て之を覆滅するに決し十二月廿六日武漢地方折柄の天候恢復を利用し堂々数十機を連

重慶を猛襲

支那事變論

切行賞

機動を行か敵の意志

がお表

の態鑑である。

きのふ第七回發表さる

中萬貴)であるが、企畫院の 第一次査定により棉花は三十 萬ピクル、薬煙草は半額程度 に削減されたものを最近臨時 せんとする意向を有してねる ので満洲圏としては現地なら がに日本の要求をも考慮して な意向の様でこれが成行は業 者方面より多大の關心が寄せ

産業を痛烈に攻撃してゐる 共産業は陕西省北部一帶を 共産業は民工の政黨が悉く る、若し凡ての政黨が悉く それぞれの特別區域設置を をれぞれの特別區域設置を 要求したならに國家の體制 は大なれ危險に晒らされる

貿易協定

一等 語選事官 石坂

弘

達

振

元 桐

大陸科學院研究官宮島忠雄 大陸科學院研究官宮島忠雄 大陸科學院研究官宮島忠雄 功工旭六 步兵少尉 藤原 步兵少尉 藤原

朝日南富土太郎

部

け 観で 学感の 空中 は 大として 渡洋爆 に 大として 渡洋爆

任最高檢察廳檢察官 東京控訴院判事樂田健太郎 新京地方法院檢察官 新京地方法院檢察官

功五旭六

西尾

功五旭五 功五旭 功五旭

步兵少尉

柘植

長少尉

111

功五旭

兵少尉 兵少尉

川崎隆二郎

步英少尉

河合。卯

叔

平

任官

元

在同開拓廳長 在同開拓廳長 在同開拓廳長 整轄需品圖需品處長 水泉 楊 尹 玉 永 書館

滿洲

三郎

功五旭台 功四旭六

大兵中尉

石端

兵中尉

功五旭

兵少尉

田

步兵少尉

小池

機工を整理通り を表現通り をを対していませんとはを変更通り は左変更の如くはませんとはを変更していませんとはを変更していませんとはを変更していませんとはを変更していません。 では、この重大時局に関しを変更に関いません。 では、一般によりました。 はなが、できば、というでは、 できば、というでは、 できば、というでは、 できば、というでは、 できば、というでは、 できば、 できが、 でが

四を常揮京樹に重旭つに適耐て轉火

級 满

。同"

ルテ

圓同

同

往

の彈痕 東西 の戦車)

(-)

功三旭三

者も行賞の恩典に浴した ならびに今回の新たに戦病死を の戦闘における名譽の戦死者 川陸軍の部

長に全しの水島の 取有な真は力量正

土力部隊の間外の場合

戦と久 地四附升・常日近伊を、の之 攻逐攻助

千田

鱛



李冠英等歸順

一徐州

(モスクワ十五日發國通) ソヴィエト政府は過般來イタリー政府との間に領事館閉鎖につき折觸を行つてゐたが、廿五日兩國間に交渉成立しイタリーはオデッサ駐在イタリー總領事館、ソヴィエト聯邦は一をテノ駐在ソヴィエト聯邦は

作曲家張曙爆死 【香港廿六日愛國通】中央通 信祉桂林電によれば支那一流 の流行歌作曲家張曙は過般來 廣西省桂林にあつて抗日工作 に從事中、去る廿四日のわが に從事中、去る廿四日のわが に從事中、去る廿四日のわが

剛五十七餘(關東軍司令部)

三千百八十七圓二十六錢

一を閉鎖

春久し

振り

聯共產黨大會 電 け没つてある複様である はソ聯浦鹽艦隊の増强と併行 る はソ聯浦鹽艦隊の増强と併行 る はソ聯浦鹽艦隊の増强と併行 る はソ聯浦鹽艦隊の増强と併行 とフランス、ギリシャ等の第 三國旗を掲げて武器の輸送や ソ聯人を上海佛租界方面へ向

東路、新聞の報するところに 大利民族の雄夫を愛場し、東亜 を選し勧請を非常の秋に立て を選し勧請を非常の秋に立て を選し勧請を非常の秋に立て を選し勧請を非常の秋に立て を選し勧請を非常の秋に立て を選し動語を非常の秋に立て

表る一九三四年一月より二月に亘り開催された第十七回大會以來既に四年經過したに拘らず未だに開催された第十七回大ないが業規約によれば、黨大會は三年に一回以上召集することになつて居りこれには左の大會以後に展開された第十七回大夫變革を來しその人的整備があるものと見られて基因するものと見られて基因するものと見られて基因するものとされた工作の総決算を行よってとの意見も接頭して來てなるので恐らく明春あたり開催するのとされるが、事に基因するものとされるが、中であるのとされるが、中であるのとされるが、中であるのとされるが、中であるのとされるが、中であるのであらり間である。

背 西 庸

線陣地樊

村鎭を占

杭州 路落 一周年 「杭州 四日發閥通」浙江財 で、この日市民は支那各機関 た、この日市民は支那各機関 た、この日市民は支那各機関 國防皇軍慰恤献金品〔驗〕

瞬順距の主なるものは金 (部下三千) 王獻臣(部下 四千) 張孫義(部下七百) 金曜三(部下三百) 張行德 (部下二百)等でなほ歸順 (部下二百)等でなほ歸順 では全く恢復を見るに至 つた

す」と語った とを知り得て心嬉 の想像以上に壯烈 の多いわが國では全金屬製よ の多いわが國では全金屬製よ の多いわが國では全金屬製よ を機を造ることになり、日本 がこの二種の上を行く最秀國 がこの二種の上を行く最秀國 【東京國通】遞

優秀經濟機 信省航空局で

浙鹽廟の竣工式は廿五日午前 滿洲廟竣工式 に工費十

追及の手を緩めず十一月中旬 てをり、師走の京城商工界にり近く摘設の手を延べんとしり近く摘設の手を延べんとし 摘發のメスを入れたが、更用する軍需品不正納入に對 ので憲兵隊の活動は更に某 更に又廿三日に至り朝鮮計 時局の際にかくれて軍需 これは何

作曲したのは頗る多

を有意義に過した

杉山最高指揮官 の就任に感謝状 (北京廿四日發興通) 杉山 新信高指揮官の就任を認つ で臨時政府掃共第一軍司令 李英、河北省磁縣知事楊汝 李英、河北省磁縣知事楊汝

平大 `るす鑑共英 任縣知事卅九名

【南京十四日發國通】皇軍の一帶の治安は急速に安定を見つるあるが内政部ではこれに一帶の治安は急速に安定を見いあるが内政部ではこれに照應して逐次各治維會を縣公署に政め、それぐ、縣知事を任命し地方治安の回復に努めつるあり、去る五月以來知事の新任されたものは江蘇二十一、浙江十二、安徽六、計三

機の本格的大量製作を行は

めることになった

磁縣州萬民

で發 兩勇士機 九名の多数に上つてゐる

今村

京城に軍需品はさきに仁川に本社を設けるはさきに仁川に本社を設けるはさきに仁川に本社を設ける 用する軍需品不正納入に對し 雑貨問屋辻本商店等時局を悪 朝鮮精米株式會社、京城の大 財産工本商店等時局を悪

推察するに難からなる戦死の状況もなる戦死の状況もなる戦死の状況もなる戦死の状況もなる戦死の状況も な裡 に雄 々しくとなど思ひ浮べらとなど思ひ浮べ

主西岡大元師代理その他在奉主西岡大元師代理を始め白々瀬少佐、土官代理を始め白々瀬少佐、土 清、日露の兩職役並に滿洲一時過ぎ閉式した、同願は **参列の下に厳かに執行、同十** 變等に殪れた日滿蒙三ヶ國の 悪ろにその鱧を用ふものでた浦鐡社員等六千體を合祀 ま他院、職業授産

四、本法にまって、

第 し載又り四る途 すは爲十とな る時で、きか

第州八條 許可を受けずして銀行業を營みたる者は五千年間以下の罰金に處すでしたる者は三千間以下の罰金に處すで、公業を整数の一次公業を整数の一次公業を数関する計のを表したる者は一年以下の開金に處する。

「本書類の健康での別金に處すを数の一次公業を数関する計のとこれでの表情がでの方法に、方法に依めをおり、

「本書類の健康が変数ので、一次のでは、一次の 第四十一條 左の各號の一に 該書する者は千圓以下の間 金に處す 一、第五條第一項又は第九 條乃至第十三條の規定に 選反したる者 一、本法に依り銀行に備く 置くべき書類の擁付若は 經濟部大臣に提出すべき 根顯書類の提出を怠り又 根源音類の提出を怠り又 根源音型でといる者 一、本法に定むる居出者は 一、本法に定むる居出者は

様界に豊摩多大の功績を残し 一般を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に専出正月五日頃 を表示に表示に表示といる。

商店同業組合

聯合會 4>11 (H)

法博授與 (東京國通) 前

第五十一條 本法施行の際規 に銀行にしてその商號中に銀行たる文字を用ひざるもの 銀行を発った月を限り引 被 法施行後六ヶ月を限り引 被 法施行後六ヶ月を限り引 を まるる のは 本 法施行後 から 文字を用 かることを まるの 名称を用 ふることを た委員會制度の法律的な新した委員會制度の法律的な新した委員會制度の法律的な新し れることになつた、この論文 れることになった、この論文 れることになった、この論文 れることになった、この論文 れることになった、この論文 れることになった、この論文 ばかりで

銀行法は之を廃止 大同ご年教令第 大同ご年教令第

二等 一等 等 店共通商品祭とす 「大連商品祭とす」とし等外は本會競行各類監査「大連商品祭とす」とし等外は本會競行各類監査「大連商品祭とす」としまり、「大連商品祭とす」としませば、「大連商品祭とする。 雷級番號は一月十一月利本紙に競表致します 参加店 1 新京商店同業組合聯合會加盟店 多百圓 四本 六等 意 百百 圓圓 六本 等外十二 十百

一圓毎に抽籤補助券一枚宛贈暴致します御買上高五圓毎に抽籤券一枚宛五圓未滿の御買上高

良料雑貨商は 十二月二十 日 般

貴金屬商 和洋雜貨、 菓子」 時計

日日よ

てま日十三月二十りよ日一月二十間期出資 聯合大賣出 吳服、 特定開始日順 十二月 蒲團、 洋服商は

配富年八分据置)を附議可決と別催、富期利益少處分案へと別催、富期利益少處分案へを開催、富期利益少處分案へ

氏再選)、監査役相生常三郎氏任期

三月 創立總會
「京城國通」 成南端川のマグ
・ 五百萬圓の朝鮮マグネサト
・ 五百萬圓の朝鮮マグネサト
・ 五百萬圓の朝鮮マグネサト
・ 大體決定した複様である。
・ よって總督府では遅くも三月
・ よって總督府では遅くも三月
・ よってといなった。

の各件をそれら、内臓決定時株主總會は十四日午後に時株主總會は十四日午後連商品取引信託會社第十二

毛皮々革統

新京取引市况 一月限 平元 平台 二 一月限 平元 平台 二

手形交換員の記目

にて開催、たの諸件を附職決回定時株主總會は廿四日午後 回定時株主總會は廿四日午後

朝鮮マグネサイト

に基きて為す處分に遠反したる者は五千氏以下の罰金に處す。 第大條、第三條の規定に違反し、 第七條、前二條の規定に違反したる者は三百世 以下の罰金に處す。 一方二十五號行政法規の罰則 適用に關する件に依る 本法は公布の日より之を施行 の日より之を施行

商况構

れる

下半期株主總會

は定用に対は枕木その他に では、二年後には省内の農 家は一戸當り五へタタールの 栗、胡桃林を持つこと」なり 東、胡桃林を持つこと」なり 東、胡桃林を持つこと」なり 東、胡桃林を持つこと」なり

割

東邦ベルス。 東邦ベルス。 初配常年六分シを附続する。 だ、軍位千圓) た、軍位千圓)を附続する。 が、軍位千圓)を附続する。 が、軍位千圓)を附続する。 が、軍位千圓)を附続する。 が、アルス。 道期利益金。 が、軍位千圓)を附続する。 で、軍位千圓)を開議可決し で、軍の大し。 一二〇〇〇五五五 一二〇〇五五五

電图 六三六

人憤慨生に送る

人ではないか、何の差めて見たまへ君對僕の 8互に役所 おりがい から知らん

鑛業開發會社 新事業計畫成る

樹安東省で計畫 增資規模擴張決定 なは株主配當率は年一間二分選)

本 すること」なった 本 すること」なった まり四月まで右側電額を配給 あ すること」なった

水陽莊 亞鉛鑛開發計畫

一 検疫所官吏服制改正の件は何 業者の使用制限に關する件、 業者の使用制限に關する件、 産業部から表彰 産業部では農業五ヶ年計畫の 進行を促進するため各般の 動等促進、技術の向上には專 ら農民目體の自覺向上を圖る ことが最も重要なことである のでその一策として今年より 全國の模範農家の表彰を行ふ こと」なり第一回の表彰を行ふ こと」なり第一回の表彰を行ふ **地七日午前十時より産業** 全國模範農家を

總同 計女 七九五、六〇六



店理代

社會式株業工庫金旭 行洋來東

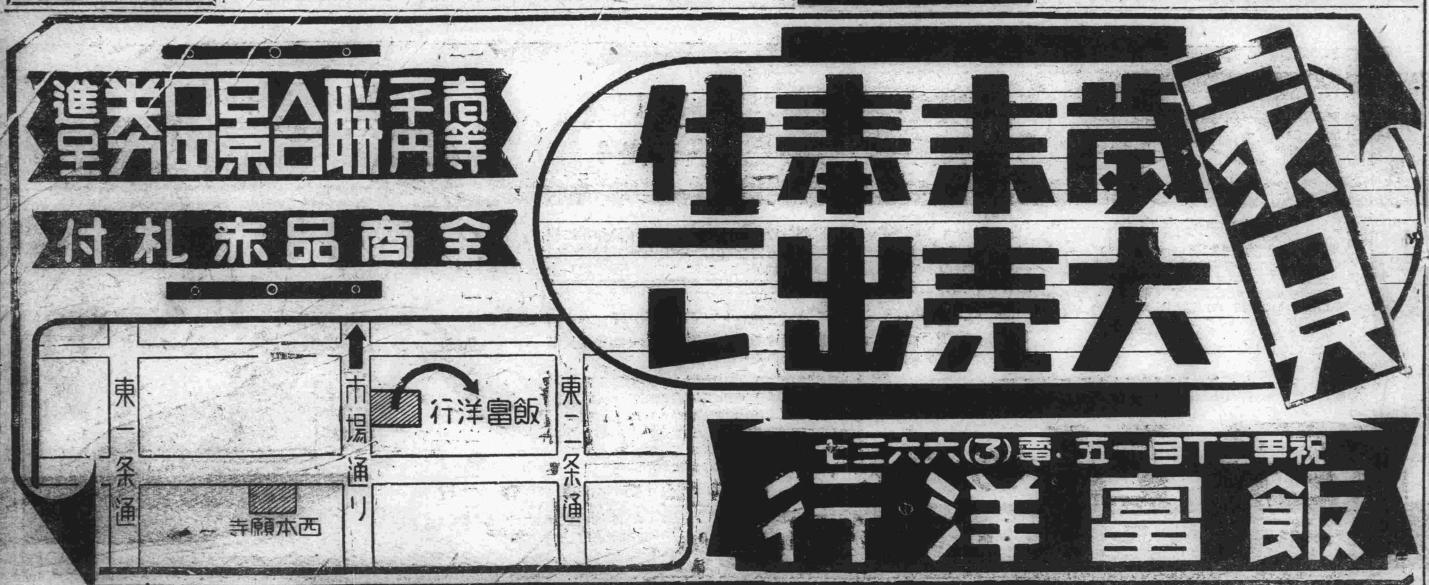
本公告中右より三行目康徳

種株類券 二百五十圓 全額拂込濟 面額 込額 二二二二 證券審議 一一一一一七七七七 七五四三二 九唐德三日年 日行 設行代表者名 總滿發行 制制與代表 動力 開開開業 發表 方名 鄉 有名義の所 月藤富同同日五年三 康德三十二年 十一月年 九月 十五日 七五日 年 取得年月日

田を爲ささるときは直に證券無效の宣言を爲す
・ お京特別市通化級二〇二ノ二・ 申立人 雑 波 宗 泊 康德五年(黄)第一一九號 年十二月十日 重要 なお京 公 示區 示 法 日田の漆器 院 唯一催 京都 清水焼 有田 香蘭焼 上









ラ

子治茶で世帶道具の店 新京三笠町日本橋通り角 部(四二日の四







し出賣大恩謝會協店商付債公國愛が行洋江近 し出賣大恩謝會協店商付債公國愛が行洋江近



鐵道架港其



豊



肚加毛囊社會式樣 町島香油基川流西波火



本劑の突撃療法

外國に於ける斯界專門家二十四氏の'最近の 報告を綜合すれば 服用者總數一五七四名中 全治者一三三八人即ち85% 残り二三六人 中一五七人即号10%は全治せず 蘇除の入 〇名即た5%は不明と云ふ結果を示して居る 處が最近本邦に於て新に發見されたる 本間 の突撃療法に依れば 者全患の95%迄を 完全に治癒し得ることが確認された。

淋疾療法の世界的發見! 現代醫學の勝利。完治者續曲!

治淋特効剤 a-u-サイドは 現代治療界に於ける サルバルサン (六〇六號) に交ぐ 最大發見として 今や全世界醫學界に 文字通りの 登異的存在となった。

G-U-サイドは 従來の治淋薬とは 根本的に異る化學的作用に依 って 淋菌に對する强烈比類なき殺滅力を有し 一日五一六錠宛 二一三日内服のみで 止膿止痛の驚異的効果が現れ その完治率は 全 患者の95%に上ることが 各醫科大學泌尿科教授等の實驗報告に發表

された。 殊に本邦に發賣されてから 僅か一年足らずして 完治者は無慮數 萬 本劑に依つて始めて 淋疾に對する化學療法が完成され今や治淋 界に 一大變革が齎らされる樣になった。

新治淋特効成分発見

本翔が從來に見ざる 治療特効漿として 昨年際米各階 學誌に發表された後 本邦に於いて試験發賣されてから 未だ一年にもならぬのに 完治者数億を出して 誰もそ の効力に對し疑は如今日 相似たる廣告文 薬名等を以 つて 治淋特効薬とする模造品が 必ず出來るでせふか 6 十分注意し 謦威なさる様お願ひします。

(全國有名藥房販賣)



満洲文學のため

12

船津正壽

二ヶ月の旅の知詞を我物額で 東日その他の新聞に發表する のを認識不足も甚だしい等と 悲憤したのも、満洲在住の心 あるものを騒がせたナンセン ス年らも、相變らず満洲在住 の人による作品にこれといふ ものを見ないのは心淋しい事

常多

世色観刊介!

の待望

下を眺めた、夢には出さず、 可哀さうだと想つてゐた、委 員夫人になつたらさぞかし怨 むちゃらう。もと (Y先生 はまだ桃の上の「三民主義」 はまだ桃の上の「三民主義」 はまだ桃の上なかつたが、よく 別つてゐた、革命になりや委 員になるんだ。委員になつた

言った。

委員ぢやて實際

――委員ちゃて簡勝ましゃ にしいよ、至く忙しいよ! と、北軍が又工縣を占領した 七人の執行委員の中には陳君

H ★ t、五0 (大連)人、一0 = ユース人、一0 = ユース ふ 朝、遗、夜 0 オーネン作曲 番 組 十二八 七街M 日京音 島住富家國東東東東 小意り庭職京京通ユ 下講

経済方の大作曲

旻

チ後鯉オ藤

帝京だり 増れの歌外一作曲 中本武勇島田 神本武勇島田 戦 露 養長津 世界 (後藤) の () の

す曲

火放。 日高 Y

六、二五趣味講演 関都の歳 村岡 化子 せ、○○(東京) 三木 朱城 - 二 - 1 ス、告知事項、今晩 の番組 アンサンブル・シ 間一〇 夜。 ◆ 大、○○(本天) 子供の時間 海州童話 少年 議勇隊長 山田 健二 一、指揮

八、三〇(東京)ラデオ時局 (東京) 一〇(東京)ラデオ時局 大、一〇(東京) 一〇日本 一〇(東京) 一〇日本 一〇〇里京) 一〇日本 古賀政男作曲(経験)

Y先生はさう考へた、そし 世哲學としてゐた、それは いつもこの言葉を自分の はいつもこの言葉を自分の はいつもこの言葉を自分の はいつもこの名の督軍が東南 とへばこの省の督軍が東南 とへばこの省の督軍が東南 と、彼は つも人に言つたものだつた 繋飾は全く賢い武人さ。 はつ

一まだ遺照が足らん。 でくれと言ふのにも構はず、 でくれと言ふのにも構はず、 やれから自分で「革命尚未賦 一枚買つた。それを壁に騙け付け寡貨を を書き、棚で傍に貼つた。 を思つてある時、細君が帰除をして を思つてある時、細君が限を と思つてある時、細君が限を と思つてある時、細君が限を と思つてある時、細君が限を と思つてある時、細君が限を と思つて表して美のた。 さら言つて壁の方に引つ張って さら言って壁の方に引つ張 さった。 これは Y 先生に

大満洲で――それが過渡期に 危なつかしいつなわたりを步いてゐる秋にあたつて、満洲 の土に根ざした文學への待望 を怒號し、叱咤したところで も渇望の息をふきかけたいの は人の常であつた―。 然し乍ら大連の所習『アクト

一橋た

が脆弱すぎは世ぬか。 が脆弱すぎは世ぬか。

十下者、やつばり君は行き給へ、實際係題仙博士の主義とれるのだからね。 そこで¥先生は革命を起したのである。それから一つの問題が起つた。どうして革命を起したのである。それから一つのの問題が起つた。どうして革命をもない。どうして革命をひそめたがけで、すつかりなりをひそめたがけで、すつかりなりである。彼は早速門である陳君を訪れて行つた。そして少しいた。とも前に陳君のやつてのた。とも前に陳君のやつてのた。とも前に陳君のやつてのた。とも前に陳君のやつてのた。とも前に陳君のやつてのた。というともにはないました。 全の機は本當に高まつて しなかつた、彼は言つた。 この動機は當然北軍 も革命軍とか何とかを怕れる とをであつた。だが米賊人 ことはないさ、あの会妻共産 も一つの大きな原因だ か。 は かったった。 は ないさ、あの会妻共産 も一つの大きな原因だ か。 とがてその難り、 ととはないさ、あの会妻共産 とどもに何が出来るもの とぎ

に ヤがてその聯神が K 智で敗 と 時はあの時今は今」だつた。 と 時はあの時今は今」だつた。 と 時はあの時今は今」だつた。 と 時はあの時今は今」だつた。 で彼は早速陳君を同志にした。それではは早速陳君を同志にした。それでは早速陳君を同志にした。それでは早速陳君を同志にした。 ここれを書きていた。 ここれを書きていた。 ここれを書きていた。 ここれを書きていた。 こことに違くからその終色の表を一勝いる。 ないらその終色の表をがあるれから又思ひつい。

本 をやつてみたが、米國人の牧 師の所まではやつてみたが、米國人の牧 師の所まではやつて來なかつ た。 Y先生はそこで大膽に外 た。 「一世がその聯神を表め出した。 でで、又も愛けてゐた、二ヶ月と經たこでに、又も愛すべき順民 Y 先生を残して去つた。 Y 先生は な 生を残して去つた。 Y 先生は な 生を残して去つた。 Y 先生は の この事を知つて早速遠方にゐの この事を知つて早速遠方にゐの この事を知つて早速遠方にゐの この事を知つて早速遠方にゐの この事を知つて早速遠方にゐの ら停車場に行つて七人の執行 の ち停車場に行つて七人の執行



洞 知 紹 京 市 専 門

製造卸

である 雄 辯 の辷り出しを示し

検接生先をさま都加 人ムバルア麗美 きつ集詩雅優

一夜卷









張り出されなが をつかみ腰を いた、心中思っ

4

をして今度は總理からなったらち。 をして今度は總理からないで何 君の方はぶつ でも判りはせん!ところで細いた、心中想ふに、女には何いた、心中想ふに、女には何いた、心中想ふに、女には何いた、心中想ふに、女には何いた。 らう。 で何を考へて で何を考へて 偉いわんよった 110

小俗 (『新潮』十二月號) し、小山いと子「4A格」

同人の中にも、吾等は二、三 筆致の細やかた替き振りのうちに思邈の態富さを知る喜び を持ち過分に將來性をつなぎ 得るし。 じつとしてはあられな いといふ在來のカラをほふり 出しての氣構へを知るのも、 やがて巣立つ大人への成長に 生活の强靱な意氣ごみを見出 すのである。



(無平衡バス停留所前) 無要失路ガス會批南

電3。六六四六番 衆 大利 通り

(人院隨意往診應語) 日本橋 新 便局前

殿 叙

外產婦性人

春

跷

長徳

丸ス

病

電2 · 一六〇五番 電2 · 一六〇五番 電2 · 一六〇五番

隨入 意院

電3 · 五二四三

崇智胡同二〇

機院産婆 松元千代 診随意 電3・五七〇九番 人院往 電3・二三二九番

突丝鼠

粉京永樂町二丁

職話(3)五六八九番 新京・室町二ノー三 新京・室町二ノー三

電3 • 四七四三青

興安族院

隨時 院長 中島信之

電話3・二五二〇番 蝦丸子

蹇

院別は上古田秀雄の大路町が街角

井

醫院

レントゲン科 小兒科專門

幽

林科

人 人。在馬

小兒 科院長 肥後弘子小兒 科院長 肥後弘子

児科

壽院

内科 小兒科

外産レ内 婦トゲン

科科科 完人 院 備室

小内 見 科科 リマス)

小兒科專門

医院

太農院

花婦賣

柳人岛

宫野町週丁目七

姑 宽

新京電 ~ 會社 裏通 醫學時士 三 井 忠 體②B八八五番

胃震震

地震

女 醫 田島靜子

電2 • 二六〇七番

電③・一三二〇番新京新愛屯豐樂路新京新愛屯豐樂路

電話三十三七三二番 (日滿百貨店二階)

或

都醫

満洲國 連信

欄

手

社报

電3·三九〇二番

富士町二丁目體 3 二六〇六番

院長河野五百里

電3・三一七一番

內科、

小兒科

內科·小兒科·籃科

差震震

法

國樂路公設市場入口

皮膚· 作病料 財子 外科· 財科 書院

知識料

発薩

松美院

皮、住底科 、 生原科 、 生原科 、 生原科 、 生原科 、 生原科 、 生原科 、 生物材 、 生物 、 生物

危時 163 ●五七九五番 165 朝日通二十一番地

新京樂智路一〇八

電2. 四八六九番

職器三十二八七三番 (名古屋ホテル前) 科專

皮花內科 胸病外科 決甲医院 電話3●三二九六季 錦町 二丁目 早 川醫院

(日 曜 火)

メントゲン設備 外級 Ţ. 院長 醫學士 上山源大 四日日

胃 呼 縣 縣 斜

腦入 意院

レントゲン科

三谷医院

小児科 外性皮 專科病膚

沖津慶

植医院

花柳 树 榮 落 成

不

毎日のしお女

意話三ー六四二七番

鈴木病院 電2·一八八七番 新京清和街七〇二 新京清和街七〇二

肥後医院

婦 婦 科 科 科 入 院隨 **病室浣髓** 時

丸重洋行士

新京富士町四丁

西西七月 支

番

保稅③五四

通關代辨

引越荷作物

業

लंडांबरांबरांबरांबरांबरां

隨入 意院 電を・三八三九

0. **大回後収扱店 國都代** 都代理店

銃後の貯蓄は

榮養保健菓子

眼 早 医经

野齒科醫院

事

私

中の御用は 電話③二四八 発動信用の出來る店 電話③二四八 校商八前店番 ナナ

おおりますがある。 キャラメル

店 本 二十目丁二內ノ丸區町麵市京東 ルリド氣電立日 所業營連大 (ルビ拓東) 二リ通際山市連大 **ルトーモ立日相軍** 【3】—九—三(長)表代 所張出京新 (階一ルビ拓東) 四六八一(長)(2)局本京新話電 所張出天奉 (階四ルビ井三)二町茂加天澤 三四八二(長)局央中天軍話電 ーダンイラグ繁電立日 ルトーモ立日相三

宋は美味しい 大石のお茶 『茶

らし、病菌を殺し、鬱血を去 見えて症狀を輕快させます 3. つて潰瘍面を収縮し、 痛みを止め、 腫れを散

玉 ⑥ 詩 店理代籍 和瓦區東阪大•橋本日京東

痔瘻瓣髓。 痔出血腦 裂痔 神関のイキミ 脱肛 胸壁をて 持核脚脈にイボか

野かせ観光に観光して不治ではありませるはれますが、沈して不治ではありません。小標序表密葉を一弦敷風出聴観に指して、おりませる。小標序表密葉を一弦敷風出聴観に指

これが増悪して、疣の瞳を起して疣を作るもの、 外部へ 関の時に脱出して元へ見服が退だしくなると、排 最常其他の病薬が患煞にます。こんな症狀に、比 れて出血する事があり

を は、 に 内部とは、 に 内部とは、 に 内部の 部所 数と 太って す。 能が 内部 数と 太って 痔

作物には、15世代版に投が出来たり、 をものと繊維です。これから、樹木鬼と たものと繊維です。これから、樹木鬼と たものと繊維です。これから、樹木鬼と たものと繊維です。これから、樹木鬼と

小松痔の薬はちを治す薬で

封を御下賜

通信行政移譲に

太后陛下

客が長春縣公署前で下車して 軍用路滅出所から上司へ善頃大經路と朝日通角で乘せた て二十餘圓を至に與へたが、四)は去る二十四ロ午前九時 渡しを了し鄭氏から謝禮と客馬車廿七號の馭者王恩(二)用氏から屆出があり無難に

英鬘に默疇を捧げた、一行に参拜、花環を捧げて護國

通信行政の移譲により全瀬中 道溝郵局と合併し取扱郵便物 道溝郵局と合併し取扱郵便物 は三倍近くに急酸に増加し是

中一たものか合體したゝめに其成一係に於て中一たものか合體したゝめに其成一条要に終り極めて圓滑に運行が、を午後五八年期 力密闘によりそれは單なる梠一來勢五八年後の大学後五八年の主たるものは郵便關一二、郵便

次一時の中間便一回を工時頃配達して次便は大時頃配達してみたの

賴むは今後の積雪狀況如何

金豊委員會為替委員會は出六

第月次 下檢分報告

天機奉伺

の記帳

には無理

いめて停滯する、

る爲を思つて下さいと言

買

に 保安係では 交通事務員を 選抜

州飛行協會と横洲防空協會の 合併問題はいよく「具體化し 明年一月七日創立總會を開き 「満洲防空飛行協會」の新名 トを切る筈である

民衆警察を目指して第一線充 一日より實施することになつは第一線動務員の活動を阻害 は二百二種の多數に及んである 一段と増進延いて第一線の弱 で第一線より報告する定期統計 で成果を期待されてある 一段と増進延いて第一線の弱 て第一線動務員の事務負擔輕 して四十八種にした。かくし 大・事務の簡捷化を闘り能率を して四十八種にした。かくし で警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 必然的に强化を意味するもの して警務科企書股に於て定期統 が が は、これを首を表表し、 第一線動務員の事務負擔輕 国 で成果を期待されてある

事務員が検査の上通行を許す ことになつてゐる、買物の人 まで出るのは少々不便だらう で出るのは少々不便だらう

協會合併

明春一月具體化

(日曜火)

一場下検分除一部の場所と

細調査したが、結果現在のスロープ及び積雪狀態

程であると初心者には

於て天機奉伺の記帳をなし、 正し宮中に参進、東御車寄に 正し宮中に参進、東御車寄に

使を訪問挨拶をなし、それよ り溥傑上尉、阮大使を混へ和 かな午餐會を共にした、午後 は近衛首相を始め關係方面を 歴訪挨拶を述べた

國使節團一行

期待は

明年度

年

試

練

何等差支へ

同四十分離んで退下した、一 行はそれより大宮御所を始め 各宮家に伺候、續いて明治神宮に參拜、無事使命達成の御 でいる。 更に靖國神社

仰付らる韓團長に拜謁

び一年の一

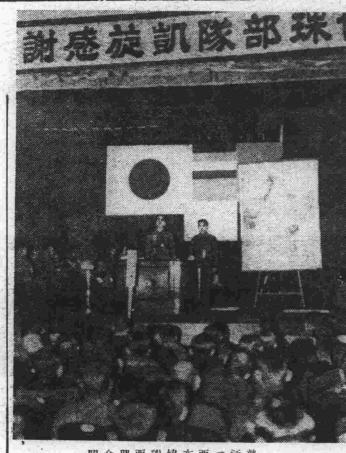
脚年度の成果して良好

軍の到

地面積の擴大等

現在各訓練所に

75



芋の子洗ふが如き

興安西軍管區代理司令官島爾

が幸ひ大捷を博しころに代の大命を拜したわが部路今回共産敗残匪第八路軍計

植田軍司令官 より感謝状

は軍司令官々即に於る招宴に は軍司令官々即に於る招宴に で「大日」 を寫した映畵が上映され で同五時半散會、同六時より で同五時半散會、同六時より で同五時半散會、同六時より

彼女は

何を覺えたか

于首都本部長の矮麞で「大日り戦闘經過報告あり、最後に せしめた、次で後藤参謀長よ

歌にまるを得たるは一に皇 歌聞力によるものであると 共に銃後徴民の熟誠なる後 要のしからしめるところで 数のしからしめるところで を表すべきであると 歌聞力によるものであると 歌いまなる後 ところで を表すると であると ところで を表すると ところで を表すると ところで を表すると ところで 軍司令部は

凱旋感謝大

きの

ふ盛大に擧行

部隊長以下

0

より約六十十日珠部隊

我儘 に從ひ炎暑を買し五 内面に侵入せる共産 日の指揮下に在りて 日の指揮下に在りて 日の指揮下に在りて 山娘家出

関し討胆狀況を説明したが、 東軍への協力を深渊し左の如 東軍への協力を深渊し左の如 **単司令官を訪** 一後二時關東

消息不明に親の所で心配し

行方捜査方を中央通署へ手廻機嫌だが心配ですと二十六日機嫌だが心配ですと二十六日 ルにゐるとの話に

配日我そ

お暮歳には

あす離京 森重前拓政司長

三圓より御調製致します

阿久津主事東上

日東上、明年一月十日頃歸任本中央と打合せのため二十八本中央と打合せのため二十八本中央と

三月五日迄に其旨本會社に申出られたし、後の本會社の債権者にして之れに異議有る者は康徳六年、被少し資本の總額を金五萬圓也と爲す事を決議したるに、本會社は康徳五年十二月二十六日株主總會に於て資本を本會社は康徳五年十二月二十六日株主總會に於て資本を

難次電化理事 満州電気化學工業會社常務理事難 電気化學工業會社常務理事難 おお一ヶ月の豫定をもつて廿六日午後六時五十分發々のぞ かんで出強した の豫定

新京特別市長春大街三〇四

啓運工業株式會社

第一線警察官

日午後四時より関務院會議室日午後四時より関務院會議室局において査定せる原案につき離時の配分計畫を協議午後五時の開発といる。

を生活が面白くなく満洲へ行 でか(十九)は派手な性質で家 でか(十九)は派手な性質で家 でか(十九)は派手な性質で家

では、親の承諾書が要るの 表しさ、親の承諾書が要るの 悲しさ、親の承諾書が要るの 悲しさ、親の承諾書が要るの

脚りませんと押通しとう (脚りませんと押通しとう (承諾書を貰つて警察でも「私 フエーを開業します」と大氣 地をあげて待望の女給となり ホール名も惠美子として働い たが、さてなつて見たら案に とうく十一月中旬漂然姿をたばかりに親の所へも歸れず 相違して大した金儲けにもな

直ちに献金手續を代行した | 年の門松飾の費用を節約して 門松飾の費用を節約して

康徳五年十二月二十五日 月二十九月迄に最近撮影の寫眞を添へ自筆麗鱁書を郵沿 相成度選衝の上追而採用考査日を通知す 康徳五年十二月二十五日

員

募

新京興安大路一二〇號

滿洲國官吏消費組合

中央通署寄託

同町商店使用の荷車以外は

馬車の交通を禁止

事務簡捷化

品

3

◆大新京料理店租合より國境 ◆大新京料理店租合より國境 警備に奮闘する警察官慰問 に金百五十個 いかのののでは、 が前職に困苦してゐる皇軍 財間金に困苦してゐる皇軍 が別題に困苦してゐる皇軍 が別題に困苦してゐる皇軍 が別述に困苦してゐる皇軍 中央通署に寄託され △輸江(三九三八名)本年は 水害に災されて大豆、小麥 以外は不作 ○孫吳(一四三四名)水害の ため代用作物は「レン草を 除き他の作物は不作

質にて作柄一般に良好なら

石◎炭◎

御。注。

に就て

御通

0

先づ統計事務を改正

△鐵鵬 (二七七〇名) 地味極 かて肥沃なるも耕地面積宴 少にて收穫高僅少 に白菜の作柄良好にて充分 自給自足可能

門松

価値を節

防献金

市立醫院

胃溜めせらるる樣の御懸念なく平日通り御注文下さる樣御願申上ますまして其れ以外は平日通り就業致しますから例年の樣に前以ての御注文工年主

南新京料亭組合

寶山、國婦へ寄附

但し急患

京市內指定販賣

藤洋

行

自日

電②二二七七

利

號電圖二七六〇

行

一二十六日午後、順天警察署長 で内南新京料理店組合を代表 で内南新京料理店組合を代表 して加納築次郎氏から同組合

市立醫院 市立醫院 市立醫院の の場合は診察の求めに鷹する四日間と決定した、但し急患

時親町西本願寺で執 人ゆきさんは豫而症 大ゆきさんは豫而症 できる薬石效なく 年後三時死去した、 年のところ薬石效なく

369 列車は延着

第二販賣所四馬路

雷②二四九八

電②一七七六

第一販賣所

行

電③二二九七

電②五六六五

電図四二二四

客は雑沓

注意すると課程物を盗みやす 想の日く「なるほどかうして 限を光らせてゐる▼彼等の域 注意すると

| 注意すると

| 課程物を

| 注意すると

| 注意 自分の荷 める呑氣な

七日より

る水田の經營及 の蔬菜などであるが、殊に赤認められ從つて は大豆、小麥、燕麥、薔麥を配められ從つて は大豆、小麥、燕麥、薔麥を 000

皮青少年義勇軍の成績

人が相當あるからね」▼これ を聞いて本職の整護職満足げ に「これで我々の苦勢もわか るだらう、とにかくそんな風 に放置してゐる奴に限つて、 いやほんの一寸の間でしたと

w當時一千餘件であ で、次に郵政の利便から日本貯金



萬一千八百四十

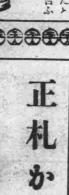
百四十一大の援助

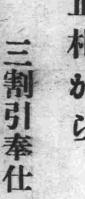














廉賣場特

玄

本年も一方ならぬ御愛顧に預り厚く御禮申上げ

以て特に年末年始の必需品を嚴撰致しまして御 就きましては感謝大廉賣塲を特設致し三割引を 提供申上ます 何卒御來店御利用の程

ます

長七郎を接護することを伝ればし

(日福火)

タ(と、関子院を踏む音。

3

いつの間に認めたのか、

題の手紙が現はれた。

人は二階で、動らく機についれは長七郎に英之賜だった。

枕に質は載つてんても、

北人松平伊豆田にあてたもの。

上に飛んでる

主人併豆守の命令を震動り、地

手をかけて、

いえ、事情をお訓きし

り出して、一般の記は俯向きに、

なた

て国た。行燈の外の流れ入る座

が観末観の虹の息だら

ふるへる手先で、

CA

若 土土 殿。

膝"

に血血 どうして灯が消えたの (二百十六)

自分の松はの行気を提げて来て 一大事が行ち受 神谷酸次郎の武士を立てきせて(お供も、隣くわれた返って

中小商工金融

東省實業株式會社

硅在所 新京特別市大同大街四〇六號

東拓ビル内 (電空四九一七)

便迅速

いて総き讚み下した長七郎、みるいて総き讚み下した長七郎、みる いま一語は 白毛染の理想 品一只來粉・麥無生物 るま築で直てい溶で水

算加料差那外海・銀十昇波・銀〇六。銀〇四個定・部品要會商助之證野学・三町寺資久南區東市阪大

40 t y 付フバドーロビ,すで粉白色七ンダモたし形固に便至帶携を粉白ナコ子粒微極いし美のキツ すまめし楽が粧化去の刺淺力息を感用使の

商助之建野学・社會式様・舖本ルーメ鳥属

日本タイプライター株式會社



脇坂ビル (長春寺前) の病性 を命用御

のむとすぐさく

散

術

優

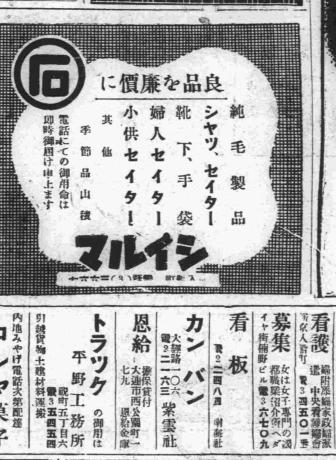
秀

三笠町ニタ

27

*靴店











電話金融 電話は六四六四六四 横濱屋質店 *二條通寸+五届

タイプ印書

際寫・代之 次

安東、撫順、新京產 企 野瀬米店 の 日間 は 人財 は み の は 人財 は み かり とろ

大和運輸公司 次和運輸公司 一次和運輸公司 一般 一般 一般 一般 一次 九〇八番 一般 一次 九〇八番

の原性の百貨店

クン

電グ③

五十五十

長

鞄

店

ラ

電会 一〇八五 自電管 TAMの 日報會結婚媒介部 大船町四丁月五 一般(III)ニ九〇八

内地みやけ電話次第配達 與强引受 二秦公司 中央通二十一 中央通二十一

トラッケの御用は野野工務所でいる。 はゆつなり 宋松接骨院 宋松接骨院

お茶道具はお茶道具は

お茶さ

今辨慶整骨院 はゆつざ

三笠町三ノ也

帳簿專門 「語っ六へ九六

カメラ修理

◆二行 ◆五行 一回金四十編 一回金四十編 一回金四十編



時·長期秘俗

◇あんま特改

病水堂鍼灸院

(通用の方は)









店货百°

等屬荷扱所 等原等務所 體含四四八九 次連支店 體含一四四一 次連支店 體含一四四一 次連支店 體含二一四一 次通支店 體含二一四一 次通支店 體含二一四一 次通支店

新温

取結311三八七

型より業盤住復切符は復 の で、汽船一側が、返州別 の、汽船一側が、返州別 の、汽船一側が、返州別 の、汽船一側が、返州別

当州丸 +二月十三角、鹿兒鳥行 う物音 5 黒 ら緑林り間 る丸丸丸丸丸 林 为 十二月卅一日





